扁　額

【所　在　地】南さつま市坊津町坊 9423 －１　坊津町歴史民俗資料館
【種　　別】県指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】昭和 29 年５月 24 日

坊津の一乗院の仁王門に掲げられていた扁額で，「如意珠山」は一乗院の山号である。長承３（1134）年，鳥羽上皇が院宣をもってくだした勅号で，扁額は島津忠良，貴久父子の寄進である。

縦 82cm，横 31cm，厚さ 1.3cm の鏡板のみが残り，中央から縦２つに割れ，つなぎ合せてなお間隙がある。板面は，如意珠山の文字形に，約２ mm 彫りこまれている。察するに，金属板あるいは木板を切り抜いた文字が，この凹面にはめこまれていたもののようで，文字の点画には釘跡が多くみられる。板面は黒漆でぬられているが，ほとんどはがれ落ちている。書風は，楷書で，珠の字には行意がみられ，整った気品高いものである。

なお，この額は，明治はじめの廃仏毀釈の際とり除かれ，その後の経路は不明であるが，のち，同地の龍巌寺に寄贈されたもので，現在は坊津町歴史民俗資料館に保管されている。

扁額は，門や室内にかけた額のことをいい，紙または板に書や絵をかいてかかげるもの。一般に横長の形式をとるので「横額」ともいう。この扁額のように寺院や神社の山号・寺号社名等を著名な人に書いてもらって山門や仁王門等に掲げるもの，願いごとなどを絵や文字で表して奉納し社殿などに掲げる絵馬など，様々なものがある。